

福井県内科医会学術講演会 発表要旨

日時：2022年7月2日（土）

場所：福井県医師会館

演者：大西内科ハートクリニック 院長 大西 勝也 先生

演題名：With ARNI 時代の降圧治療の戦略的アジェンダ

要旨：

心不全治療薬として発売され、昨年降圧治療薬とし保険承認されたサクビトリル・バルサルタン（ARNI）を、降圧薬とし実臨床でどのように使用すべきか、心不全治療のエキスパートである氏にご講演いただいた。

ご講演は、①血圧はどうして下げる必要があるのか ②血圧はどうして上がるのか ③ With ARNI 時代の降圧治療の戦略的アジェンダの3つの項目を追って進められた。

- ① 人生100年時代といわれているが、健康寿命と実寿命のギャップが問題。健康寿命低下の要因として、脳心血管病や認知機能低下の関与が大きく、その発症予防には血圧管理が重要である。加齢とともに腎機能は低下するが、正常血圧者と高血圧患者では、糸球体ろ過量（GFR）の低下率が異なり、年齢とともに指数関数的にその差は広がる。腎機能低下は総死亡、心血管イベント率とも相関し、以前は積極的降圧治療に関し意見が分かれた高齢者（75歳以上）にも、最近のSPRINTなど大規模研究では、積極的降圧治療の優位性が示され、それが推奨される。腎機能低下が、死亡率や心イベント発症リスク増大に大きく関わる要因として、心腎連関があげられ、その中で大きな役割をしているのが神経体液性因子である。神経体液性因子には、自律神経系、レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系とナトリウム利尿ペプチド系があるが、その中でもナトリウム利尿ペプチドは多彩な臓器保護作用を有する。
- ② 高齢者高血圧の特徴は、血管の動脈硬化、弾性低下、圧受容器反射の障害により、孤立性収縮期高血圧の増加、起立性低血圧・高血圧の増加、血圧動揺性の増大などがある。それに加え、腎機能低下、ならびに食塩感受性増大もみられる。食塩感受性は、食塩摂取増加に基づく血圧上昇の程度を示すものであり、その亢進した人ではGaytonの圧利尿曲線における傾き低下を認め、食塩負荷により血圧が容易に上昇する。加齢によるRAS活性化がその要因と推測される。したがってRAS系を抑えていくことが、高齢者高血圧を治療する上では重要である。また、どのような降圧剤を使うかということも大事であるが、高齢者ではついつい管理目標が甘くなる傾向があり、しっかりガイドラインに沿った降圧目標まで下げることも大切である。
- ③ 現政権は、日本経済における成長と分配を掲げたが、それになぞらえ高血圧治療の成長と分配を提案する。つまり、成長とは高血圧症全体の生命予後をよくする、分配とは一人ひとりにあった高血圧治療を提案する（個別医療）である。全体に対する治療としてまずはガイドラインに沿った降圧剤の選択ならびに管理目標設定を行い、管理不十分な

場合は循環器、高血圧専門医に相談すること。分配として、腎機能や心機能、心肥大の有無などから降圧剤を選択していくこと。選択する上で大事なこととして、圧利尿曲線をイメージした治療戦略である。私見にはなるが、RAS抑制とナトリウム利尿の両方を兼ね備えたARNIは、他の降圧剤に比しより正常血圧者の圧利尿曲線に近づくと考えられる。最後に、ARNIが適する患者像としては、心血管イベントリスクが高く、塩分感受性亢進（non-dipper、CKD 合併、DM 合併など）症例や、浮腫みがみられる症例などである。

以上の点を踏まえ、RAS 抑制とナトリウム利尿促進による厳重な血圧管理が高血圧患者の予後（健康寿命）改善に重要であると氏は説いた。

（ひらぎわ内科ハートクリニック 平澤 元朗）